

2024年度 冬号 Start Line

図書部&進路指導部からの進路情報を発信します。冬号は、節目を迎え、新しい一歩を踏み出す時に読んでほしい本を特集しました。苦しい時や、心が辛くなった時に、心の支えになればと思いながら、本を選びました。

『カーテンコール!』 加納朋子 著 新潮社

3月末で閉校が決まった私立の女子大学。学園側の救済措置が実施されたにもかかわらず、卒業できなかった学生たちがいました。外出、ネット、面会すべて禁止の寮生活をおくり、特別補講を受講さえすれば、卒業を認めるということになりました。彼女たちが、学校に登校できなかった理由は、摂食障害、睡眠障害など様々ですが、寮生活をする中で、自分にこれまで欠けていた何かを一人一人が見つけていきます。理事長の「優しさには人のためになる優しさと、人をダメにする優しさがあるというのを覚えておきなさい。」という言葉は、とても心に残りました。



『Shrink ~精神科医ヨワイ~』 既刊14巻 原作 七海仁 漫画 月子 集英社

2024年に読んで一番はまったコミックです。実写ドラマも大反響だった作品です。主人公 弱井幸之助は「新宿ひだまりクリニック」を経営する精神科医です。のほほんとした柔らかい外見ですが、ハーバードの医学大学院にも留学した優秀なエリート医師です。彼は、精神科に通う人を増やしたいと考えています。それは、病人を増やしたいのではなく、気軽に精神科に通えるようにしたいという思いからです。今の日本は、“精神科は特別なところ”という思い込みで、救える人を病院から遠ざけてしまっています。心の問題に無関係な人などいません。この本を読んで勇気づけられる人が、きっといると信じて推薦します。



司書おすすめ



『ある奴隷少女に起こった出来事』 ハリエット・アン ジェイコブズ 著 大和書房

19世紀アメリカで、ある黒人の奴隷少女が自らの尊厳をかけて、戦った実話です。「悲しみ」「絶望」「恐怖」日々苦難の連続の中で、決して諦めることなく、前を向いて生きてきた先にあった人生とは、、、最初は、物語だと思われていたのですが、126年後に実話とわかり、米国でベストセラーとなり、日本でも話題となった本です。アメリカ史が気になっている人に、おすすめします。



『あなたの言葉を』 辻村深月 著 毎日新聞出版

著者の辻村さんは2018年『かがみの孤城』で本屋大賞第1位になり、その後、この作品はアニメ化されました。昨年は『傲慢と善良』が映画化、押しも押されぬ人気作家です。作家である彼女が小説ではなく、エッセイを書きました。小説では、ミステリー的要素の強い作品が多いのですが、実際の彼女はどんな人だろうと思い、この作品を読みました。



『ライオンのおやつ』 小川糸 著 ポプラ社

瀬戸内海の島にあるホスピスが舞台です。この病院には、毎週日曜日、入居者がもう一度食べたい思い出のおやつをリクエストできる「おやつ時間」があります。おやつを食べながら、おやつにまつわる思い出を語るという時間です。命の終わりを意識する時、人は何を考え、行動するのか?重いテーマの中に、温かさが感じられ、「死」という重いテーマですが、読み終わった後、心が温かくなる作品です。



ミルクレープ。主人公が人生で一番思い出に残っているおやつとして選んだスイーツ。



全編から感じられる事は、子どもたちが日々の生活の中で感じる生きづらさや、悩みに対して、押し付けがましい言葉はまったくなく、子どもたちの心に寄り添い、励ましていることです。子どもたちから、「どうして、辻村さんは子どもの気持ちが、こんなによくわかるのですか?」という質問があるそうです。答えは「私も子どもの時代があったから。ただ、子どもの時は、気持ちを言葉にすることができなかった。大人になった今、“自分の言葉”で伝えることができるようになった。ただそれだけです。」と、この本の中で述べておられます。

目次を読んで、今自分の中で、気になっている言葉を見つけてください。辻村さんが語る言葉が、あなたの心を軽くしてくれることでしょう。

ここで紹介した本は、全て天高図書館にありますので、ぜひ図書館に来て、手に取ってみてください。
ご来館を、お待ちしております。(図書館)